

【はじめに】

「キヌヒカリ」は県内水稻作付面積の約3割を占めている。しかし、近年は1等米比率が30%前後と低い状況である。登熟期の高温による白未熟粒の発生や穂発芽しやすいことが主な要因と考えられる。このため、「キヌヒカリ」に近い熟期で、登熟期の高温による品質の低下が少なく、穂発芽しにくい良食味品種を選定してきた。その結果、「あきさかり」がこれらの条件を満たすと認められ、徳島県奨励品種の採用に向け、手続きを進めている(図1)。

茎数が多いため紋枯病が発生することがあるので適宜防除を行う。白葉枯病に弱いので、常発地での栽培はさける。葉いもちに対して「やや弱」のため、適期防除に努める。

「キヌヒカリ」に比べ穂発芽しにくいだが、「コシヒカリ」に比べると穂発芽しやすいので、適期刈取りに努める。

(農産園芸研究課 作物・キノコ担当 広田 年信)

【特性概要(「キヌヒカリ」との比較)】(表1)

出穂期は4日程度、成熟期は6日程度遅い。

稈長は約5cm低く、穂長は同程度である。穂数は多く、“偏穂数型”である。

収量性は4月下旬から6月上旬の移植期において高く、安定している。

玄米千粒重は同程度である。玄米の外観品質は心白の発生が少なく、整粒歩合が高く、白未熟粒の発生も少なく、良質である。また、高温条件下での玄米の劣化は少ない(「コシヒカリ」より少ない)。

玄米の蛋白質含量はやや低い。食味は同等以上の良食味である。

いもち病真性抵抗性は“*Pia,i*”をもつと推定されるが、葉いもち抵抗性は“やや弱”，穂いもち抵抗性は“中”である。

穂発芽はしにくく、“やや難”の格付けである(「コシヒカリ」よりやや易)。

【栽培上の注意事項】



あきさかり

キヌヒカリ

図1 成熟期の草姿及び玄米

表1 各作期における生育, 収量

作期	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏	収量	同左比	千粒重	品質	蛋白質含有率
		(月.日)	(月.日)									
早期	あきさかり	7.18	8.26	70.1	17.9	402	0.1	59.6	114	21.2	4.2	7.5
	キヌヒカリ	7.14	8.19	76.5	18.0	330	0.1	52.3	100	22.1	4.9	8.3
早植え	あきさかり	7.28	9.05	73.7	17.3	408	0.2	59.5	116	22.1	4.3	7.6
	キヌヒカリ	7.24	8.29	79.5	18.1	332	0.0	51.7	100	22.2	5.2	8.3
普通期	あきさかり	8.08	9.15	72.9	17.4	370	0.0	57.9	121	22.3	3.9	7.8
	キヌヒカリ	8.04	9.09	78.4	17.8	296	0.2	47.9	100	22.4	4.6	8.6

注1) 移植期は早期(平21~27年)4月24日~4月26日, 早植え(平21~27年)5月13日~5月18日, 普通期(平18~27年)5月29日~6月2日

注2) 本田窒素施肥量は基肥0.5kg/a, 穂肥0.3kg/a, 栽植密度は16.7株/m<sup>2</sup>

注3) 倒伏は0(無)~5(甚), 品質は1(上上)~9(下下)

注4) 蛋白質含有率は静岡製機TM-3500による(玄米)